令和５年度「豊玉姫神社の水車からくり」について

◎水からくりについて

豊玉姫神社の六月灯で、水車の動力を利用した「からくり人形」が上演されます。これは、全国でも鹿児島にしかない貴重な文化財でもあります。江戸時代からの行事で、毎年多くの観客で賑わいます。途中戦争などで途絶えていましたが、昭和５４年（１９７９年）に復活され今年で４４年目となります。

毎年、神話やおとぎ話に基づいて違う演目で上演され、約３０～５０㎝の沢山の人形たちが水車の動力で木製の歯車やテコの応用により、前後左右に動いたり、首を振ったり両手両足を動かして、とても水が動力とは思えない細かい動きをします。

昭和５８年（１９８３年）には、鹿児島県より「知覧の水車からくり」として有形民俗文化財の指定を受け、昭和５９年（１９８４年）には、国より「薩摩の水からくり」として無形民俗文化財の選択を受けています。

◎開催場所　　豊玉姫神社境内の「水からくりやかた」

◎演　　目　　「　かぐや姫　」

◎場面の内容

竹取りのお爺さんが山で竹を取っていると、一本の光り輝く竹があり、不思議に思い、その竹を切ってみると中には三寸ほどの小さな可愛らしい女の子が座っていました。これは神様からの授かりものに違いないと思い、お爺さんは女の子を家に連れて帰り、かぐや姫と名付けてお婆さんと二人で大切に育てることにしました。その日から山へ竹を取りに行くと、竹の中に黄金を見つける日が続きました。かぐや姫は日に日に大きくなり、三ヶ月ほどで美しい娘に成長しました。美しいかぐや姫の噂は瞬く間に広まり、五人の立派な若者から結婚を申し込まれますが、かぐや姫は結婚の条件として五人に難題を課しました。そして結局は、かぐや姫が課した難題をこなした者は誰一人としていませんでした。また、かぐや姫の美貌に心を奪われた帝は、かぐや姫に宮仕えを命じますが拒否されます。やがて十五夜が近づくと、かぐや姫は月を見て物思いに耽るようになり、お爺さん達が理由を聞くと、「自分は月の都の者であり、十五夜に月から迎えがやって来る」とかぐや姫から打ち明けられました。お爺さん達は、かぐや姫を月の使者から守るため、帝にお願いをして、十五夜の日にたくさんの軍勢を手配しました。ところが、月の使者がやって来ると軍勢は動けなくなってしまいました。かぐや姫はお爺さんに不死の薬を渡して別れを告げ、月の使者とともに月の都へと帰っていきました。・・・・という場面を上演する予定です。

◎上演期日　　六月灯　　７月９日（日）～　１０日（月）　　９時～２２時

特別上映（ねぷた開催日）　７月２９日（土）　１３時～２１時

◎アクセス　・豊玉姫神社へは、鹿児島市内からは，国道２２６号を指宿方向へ向い平川交差点を右折、県道２３号線にて南九州市役所本庁舎を目指し、市役所からは、川辺方向へ約１㎞。　・国道２２５号線からは川辺町広瀬橋交差点を左折し、県道２７号線にて知覧方面へ約４．５㎞。

・南薩縦貫道からは金山水車ICを左折し知覧方面へ約１．４㎞。

◎駐車場　　豊玉姫神社前に普通車５０台程度

◎問い合わせ　　からくり仕事処（豊玉姫神社）　TEL　０９９３－８３－４３３５